

## 磐城国道

## アルミ床版で歩道添架

## コスト・工期でメリツト

既設の道路橋にアルミ製の床版を用いた歩道を張り出し添架する工事が福島県内で進められてい



小高川橋での施工の様子

現場は福島県小高町の国道6号にある小高川橋。国土交通省磐城国道事務所が管理する橋長101.1mの4径間単純鋼合成工桁橋。上流側に歩道を設けるにあたり、既設の橋体に大幅な補強を必要とせず架設も容易にできるとしてアルミ合金製の床版が採用された。

既設橋に歩道を設ける場合、新たに下部工を構築して独立した側道橋を設置するか、桁の増設やフラケットの張り出しなどをして歩道用の床版を設置する方法などがある。

しかし独立した橋の新設はコストがかさみ、既設橋の拡幅も上下部工の大幅な補強が必要になり、コスト、工期の両面で課題がある。

同現場では幅員2・4mの歩道を添架するため既設橋に鋼製フラケットを取り付け、重量約14トンのアルミ製床版(地覆・高欄含む)を架設した。作業はブロック分けしたアルミ床版を10トクレーンで架設していくもの。架設日数は4日間。クレーン車設置のため本線部1

車線を規制して行った。アルミ部の橋面は10mm厚の樹脂モルタル舗装。歩道増設に伴い既設橋の主桁などで若干の補強工事を実施した。歩行者保護やバリアフリー化の観点で歩道の整備が全国的に進められているため、施工が容易なアルミ床版の採用が増えてきそう

だ。施工は石川島播磨重工業。アルミ材提供は住軽日軽エンジニアリング。今月26日に地元住民にお披露目される。